

- 1 題材名 誰の声を優先して決めるのか ー原発再稼働は誰の声をもとに決めるのが望ましいかー  
2 題材について

(1)【場面設定】:「時事的な社会事象について、他者との差異や葛藤を感じる問題」を扱う内容

原子力発電所再稼働をめぐる論争点には、原発立地自治体の意向を反映するか否か、原発立地範囲はどの程度までを含めるのか、要介護者・高齢者など社会的弱者の避難計画が万全であるかなど多岐にわたる。また、火山噴火の予知との連携など、原発の耐震基準や津波対策以外の懸案事項も多い。それらについても検討してみよう。

(2) 本題材と子どもたちのかかわり 「産業を支える電力について考えよう」(2016年10月実施)で、子ども達は未来の発電方法は何がより良いのか、「判断の規準」(価値)をもとに考えた。子ども達が抽出した「判断の規準」は、①自然環境や景観への影響、②健康・人体の安全、③再生可能の可否、④広大な土地が必要か、⑤費用の多少、⑥大量発電か、⑦CO<sub>2</sub>排出量、⑧原発地元民の安全などだった。子どもたちの中には、原発の再稼働に際しては福島県飯館村のように、原発非立地自治体にもかかわらず大被害を受けた人々のことを考慮することも「判断の規準」にする子が出てきた。この問題は、価値・公正の点から看過できないと判断する。火山噴火、大地震のような自然災害と原発の再稼働の問題を複合的に考え、火山噴火への対応策、避難計画の策定も含めて現実的な学習場面を想定し、鹿児島県の川内原発を事例とする。田村哲樹(2015)は、政治教育では「争点や問題ではなく、決め方を扱う」ことが重要とも言っている。そこで、原発立地自治体の声、30km圏の自治体の声、国民全体の声、一体誰の声を優先するべきかを討議することを通して、公正という価値について改めて考えて行きたい。

(3) 本題材において育てたい「政治的リテラシー」(ルーブリックの最高基準点の姿を記載)

|   |  |
|---|--|
| ○社会的事象や時事問題の対立点、論点や、それらの背景となる基本的事実を理解する。  | ・原発の再稼働をめぐるのは、新規規制基準に合格したら再稼働を認める立場と、安全基準の想定を超える自然災害が起きる場合などを考慮して再稼働に対して慎重にする立場がある。                |
| ○社会的事象や時事問題の対立点、論点について、多面的(他者の視点)な見方で考える。 | ・論争点の「判断の規準」には、原発から離れた地域の声を反映するか、避難経路の有無はどうか、火山噴火の予知との関連は万全かなどが考えられるが、自分と同じ「判断の規準」で、他者からの反論を想定できる。 |
| ○読みとった情報・知識を、自分の主張の根拠にする。                 | ・原発周辺地域で進められている安全対策の具体例や、それでも不安を感じる人々の思いを、新聞記事などから読みとり、自分の考えの根拠として活用する。                            |
| ○様々な立場の人々が幸せになれる条件を考えて決定する。               | ・原発周辺に居住する要介護者、高齢者の避難など、社会的弱者の視点からも考えて、多くの人々の安全が守られる条件を満たすような判断をしようとする。                            |

3 学習指導計画(ルーブリックの規準i~ivに従って計画を立てる)(6時間目/全9時間)

1~2時: 全国の原発の立地状況や周囲の地形などを概観して、自然災害との関連を知った上で、原発再稼働をめぐる論争点、背景について「判断の規準」(価値)をもって考えようとする。

3~7時: 子ども達の「判断の規準」をもとに、対話・討議を行い反論を得てそれへの反駁をする。「判断の規準」に、要介護者の避難、噴火予知など、広い視野で想起できる環境を整える。

8~9時: 対立する考えと積極的に妥協できる案の有無を話し合う。パフォーマンステストを行う。

4 本時について

(1) 本時のねらい 原発立地自治体の声、30km圏の自治体の声、国民全体の声、一体誰の声を優先するべきかについて、討議を行い、反論を得て、自分の考えを見つめ直す。

(2) 本時の展開

| 予想される子どもの活動  | 留意点  |
|--|--|
| ○課題を確かめる。<br>川内原発再稼働について、一体誰の声を優先するべきか、話し合おう。  |  |
| ○薩摩川内市民はもしも事故が起きたときのことを覚悟しているから、薩摩川内市民の声を第1に優先するべきです。<br>○原発がない30km圏内の隣接市町村や、日本国民全体の意見を優先するべきだと思う。ふだんは利益がないのに、事故の時だけ巻きぞいにいなければならないのは、納得できないから。 | ○原発立地自治体の市民の声、30km圏の自治体の市民の声、国民全体の声など、世論調査を元に、ロールプレイを行って、様々な立場から考えさせる。 |

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

・原発立地自治体の声、30km圏の自治体の声、国民全体の声、一体誰の声を優先するべきか、ロールプレイを通して「公正」について考えを深められたか。